

## 編集後記

人生において人にはそれぞれの節目がある。岐路に立ち選択すべき時に、いろいろと悩み思考を繰り返し出した決断が、本当に正しかったのかを後になって思い返すことがある。私自身この3月で大学を退職する日が訪れるが、自らの医師としての現在までの歩みを静かに振り返っている。楽しかったこと以外に、あの時ももう少しこうしておけば、また違った流れになっていたのではないだろうか。無理してもチャレンジしていたら、また違う生き方になったのだろうか。もう戻ることは絶対にないのに、ふとそんな思いにかられる。これから始まる第二の人生に何をすべきなのか、何ができるのか不安と期待が交錯する。

日常診療でも難しい症例やみたこともない特異な臨床像を目の前にしたときに、頭の中でいろいろな鑑別疾患が脳裏を巡る。そして考えられる疾患を確定するために、必要な検査や適切な治療法を行なっている。一人で診療すると、陥りやすいのは思い込みである。大学や病院勤務では診療の合間やカンファレンスなどで意見を聞く機会があるが、個人では聞くすべは少ない。そこで臨床写真を撮っておくことをお勧めしたい。経過を見る上で大いに参考になるし、治療効果をみる上でも役立つ。残念ながら保険点数には入っていないが、皮膚科医にとって臨床写真は重要なカルテの一部である。疑問を持っていると、参考書、文献検索中や学会発表時に同様の臨床像をみて、これも鑑別すべき疾患だと気付く。また他の先生にみせて意見を聞くこともできる。地域の研究会や勉強会では、日頃悩んでいる症例や意見を聞きたい症例を、堅苦しい学会形式ではなく持ち寄って話し合う機会があればよいと思う。すでに実践されている地域があれば、『皮膚病診療』の声の欄に寄稿していただきたい。新しい知識の導入に加えて、日常診療のスキルアップも忘れてはならない。

(H.M.)

## 次号予告

Vol.38, No.5

## 特集 自然消褪する皮膚病

- ◆editorial 向井 秀樹
- ◆topics 新生児疾患において経過観察でよい皮膚疾患 日野 治子
- ◆展望 蔓状血管腫 倉持 朗
- ◆臨床例
  - 小児の汎発性環状肉芽腫 遠藤 恵ほか
  - 生検後に自然消褪したpseudocyst of the auricle 会津 隆幸ほか
  - 強い炎症症状と膿瘍形成を伴い自然消褪したミルメシア疣贅 江川 清文
  - 生検後に自然消褪した皮膚原発未分化大細胞リンパ腫 松岡 潤子ほか
  - 自然消褪を認めた悪性黒色腫 森 章一郎ほか
  - 肝細胞癌に対しソラフェニブ(ネクサバル)投与中に出現した好中球性皮膚症 西本 知子, 池上 隆太
  - Bowen様丘疹 石地 尚興, 松尾 光馬
  - Lichen planus-like keratosisは確かに自然消褪する
  - 40例での検討結果— 村田 洋三, 熊野 公子
  - 手部に生じた悪性黒色表皮腫 大歳 晋平ほか
  - 大腿部に生じたrapidly involuting congenital hemangioma (RICH) 飯岡 弘至ほか
  - 10年間経過観察し、自然消褪を確認した多発型若年性黄色肉芽腫 堀口麻有子, 落合 豊子
  - 自然消褪した小児指趾線維症 梶井 崇行
  - 胃癌術後、速やかに消褪したmalignant acanthosis nigricans 善家由香理ほか
  - 生検後に自然消褪を認めた環状弾性線維融解性巨細胞肉芽腫 (AEGCG) 池田 彩子ほか
  - ロドデノール含有化粧品による脱色素斑 高橋 彩ほか
- ◆皮心伝心 天野 正宏
- ◆蝶の博物詩 西山 茂夫
- ◆診察室の四季 斉藤 隆三
- ◆皮膚科のトリビア 浅井 俊弥

## 皮膚病診療 Vol. 38, No.4(2016)

平成28年3月26日印刷

平成28年4月1日発行

1部定価2,400円(本体)+税 送料82円

年ぎめ予約購読料35,800円(本体)+税

発売所/丸善出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17 神田神保町ビル6階

TEL 03-3512-3256(代表・受注センター) FAX 03-3512-3270

編集人 西岡 清

発行人 小西 庸一

発行所 株式会社協和企画

〒105-8320 東京都港区虎ノ門1-10-5

日土地虎ノ門ビル3階

電話:03-6838-9200(代) 03-6838-9225(編集)

振替口座:00190-0-36746

印刷所 株式会社 恒陽社印刷所

ご購入ご希望の方は直接弊社もしくは書店までお申し込みください。

© 株式会社 協和企画 2016年

・JCOPY &lt;(社)出版者著作権管理機構 委託出版物&gt;

本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(社)出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969, FAX03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。